

ホーム名：グループホームびろうじゅ高倉					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	既存の事業所理念を踏まえ職員会議での話し合いを重ね利用者様と職員が共に日々笑顔で過ごせることが大切と思い「みんなで笑顔！」を理念とし実践していくこととした	認知症に対する知識とその介護技術を習得した職員が、如何に集団生活の中でそれを実現していくかが謳われている。集団の中の一人ではなく、其々の個性が活かされているような日常生活を営めるようにその実現を目指している。	理念の実践には職員の研修が不可欠である。特に外部研修により新しい介護技術を取り入れてスキルアップの継続に努めて頂きたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入しており折々の地域行事にも参加している 又町内会の回覧板などにホームの様子等を載せたホームだよりなどを回覧している	自治会に加入し、回覧板でホーム便りを回覧することによって当該ホームの近隣への周知に努めている。獅子舞や神輿の巡行があり、近隣幼稚園で行われる夏祭りや花見には利用者が参加する等地域との交流がある。また近隣中学校の職場体験や介護予防ポイント事業のボランティアの受け入れを通じて地域とつながっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人発行の新聞に豆知識を記載したり、法人組織へのお問合せにはすぐに対応している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催は定着しており、ホームの状況を包み隠さず報告している 又 ホームを知って頂く取り組みとして、回覧板へのお知らせなど具体的なアドバイスを頂き活かしている	二か月毎に開催される運営推進会議には外部から包括支援センター職員、町会長、婦人部長が参加している。日常の支援の結果報告や予定について話し合わせられ運営の指針が決定されている。	参加者の中に家族代表者がいることが望ましい。また、認知症に対する知見者が招かれるよう配慮され、会議の充実化を図って頂きたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	最近では、生活保護申請や保護者の受け入れが増えており、相談支援を受けている 又 社協の安心サポートの利用もできている	生活保護関連で区役所に連絡することが多い。社協の安心サポートを使うようにしているため担当者が定期的にホームを訪問する。また区の地域高齢者施設連絡会の総会や研修に参加して他の施設との交流・情報交換にも努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないという前提でケアを行っている 職員会議での資料配布や研修により職員の意識もできてきている 転倒転落の危険性に配慮しながら本人やご家族の意向もふまえてケアをすすめている	身体拘束をしないケアを実践している。ベッド柵、手指の機能を制限するミトン、立ち上がり制限するテーブル、椅子等は使用していない。足元センサーは使用している。また玄関の施錠は立地条件を考えると利用者の安全確保のためやむを得ない。	身体拘束をしないケアは実践されているが、次の段階として利用者の行動を制限・抑制するような言葉かけ、口調について職員間で認識を深め、言葉による行動の制限や抑制をしないケアに取り組んでいっていただきたい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	大阪市の集団指導での研修資料を職員へ配布し職員会議での話し合いを行っている 又ケア中での不適切な言動に関してその場で注意するようにしている 職員の体調にも配慮するようにしている		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>以前に1名一人暮らしで身寄りのない方の入所があり、成年後見人の方が来所される事があった</p> <p>今後もそうした方の入所が予想されるので、そうした学びを深めて行きたいと思う</p>			
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約に関しては、事前の面談や見学を行い不安や疑問の解消に努めている</p> <p>契約締結時には十分に時間を取り説明を行い納得を得ている</p>			
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご本人の意見や希望は都度々に対応しており、職員間で共有している又ご家族へは、面会時や問題が起きた時に管理者より連絡を取り、意向を確認している</p>	<p>家族来訪時の意見、要望等は職員連絡メモに記入することにより職員間で情報共有してケアに反映されている。以前は事業所主導で年1、2回家族会が開催されていたがここ二年程開催されていない。</p>	<p>運営推進会議の案内や議事録、また前述のホーム便りを請求書送付時に同封して、定期的な事業所の状況報告とされてはどうか。また家族会についても可能であれば年一回でも再開されることを期待する。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>職員会議の場や1回/年の職員契約更新時に面談を行い、意見や提案を聞いている 又 日常のケアの場面でもフランクに意見を聞くようにしている</p>	<p>職員の要望や意見は年一回毎の契約更新時に提起され話し合い反映につとめている。</p> <p>議事録は掲示板で提示され実践されている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>毎月の事業所報告や管理者会議で職員の動向を報告している</p> <p>又進退についても問題があればすぐに介護部長や専務理事に報告し、時には一緒に面談を行い意見を聞くようにしている</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者が職員個々人のケアの力量を把握しているわけではないが、介護部長などと連携して把握に努めており、法人負担での通信教育の推奨や外部研修の参加を促している</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>医療生協として、民医連での研修参加や他生協との交流会への参加を呼び掛けている</p> <p>又ホームでは都島区内の高齢者施設連絡会の研修等へ参加し他施設との交流によりサービスの質の向上に努めている</p>		

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所前面談には複数の職員で本人居住先へ出向き、住環境も含めた環境把握に努めている。ご家族との面談の時間も十分に確保しご本人の人となりや生活歴が把握できるようにしている。又本人のADLなど細かにアセスメントし入所後のケアに生かしている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所前の見学や面談時には、十分にご家族と話す時間をもち情報収集に努めている。ホームでの具体的な内容を示しながらホームでのあり様を提示し安心して頂けるようにしている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>サービス利用前面談では、ご本人の今の課題を探るようにしており、必要であれば法人内の他のサービスを紹介しご本人が望んでおられる生活が維持出来るよう情報提供を行っている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ホームでの生活は本人主体の場であり、職員は本人を一人の生活者と捉え、本人の生活力の不十分な部分を補いながら日常生活を過ごしている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>いつでも面会の来て頂けるような雰囲気作りに努め、日常の些細な出来事もご家族様へは包み隠さずお伝えしご自宅でのご様子を聞き取りながら、少しでもホームでの生活がし易くなるようにしている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>あえて面会時間の設定はしておらず、たとえ食事時間でも同席頂きいつでも気兼ねなく来て頂けるようにしている。又、お誕生日会やホームでの行事などにも参加して頂けるようお声掛けしている。</p>	<p>長期入所の利用者はこれまでの知人が訪ねてきてくれても、認知できなくなってしまうこともあり話が進まず、結局疎遠になってしまう。外出の意思のある利用者は近所のスーパーや花見、夏祭りに出掛けるようにしている。</p>	<p>入所年数の少ない利用者もいるので認知症カフェなどに行って、新しい馴染みの場所や交流を見つけることも一考いただきたい。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>フロアでの席順にも配慮し、関係作りが出来るように支援している。又言葉の行き違いによるトラブルが発生した時は、職員が間に入り話題を替えたりして良好な関係作りが出来るように支援している。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>長期入院での退所であっても時に面会に伺ったりしている。又ご本人ご逝去に際してはご連絡頂き、通夜やご葬儀に列席させて頂いている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常にご自分の希望や意向を表出する事は難しいが、出来るだけご本人の言葉を聞き取り本人が選択する事が出来るように関わっている</p>	<p>本人の仕草や表情を見抜き出来る限り思いや意向を汲むようにしている。職員どうしでは、連絡メモや管理日誌を利用し共有しあうようにしている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>日常にご本人との会話に努めご本人の思いを聞き取るようにしている 職員間での情報共有を図りながらご本人の意向をくみ取るようにしている 困難な場合は、本人が望まないと思われる対応はしないと取り決めて</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>日常にご本人の言動に注視し、いつもと違う事に気付くようにしている その気付きを職員間で共有しご本人の心身の状況把握に努めている</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>10分カンファや職員会議、又ご家族様の面会時には、現状の様子を報告し、困りごとやあるべき姿を探っている その情報を介護計画に反映させている</p>	<p>ケアプランは六か月毎、変化のあるときはその都度作成している。主治医と歯科医の居宅療養管理指導情報をケアプランに反映させている。家族とは電話であるいは来訪時にケアプランについて口頭で話し、確認している。以前は10分間カンファレンスを行っていたが二名職員が離職したため現在はできていない。</p>	<p>職員の体制が整い次第10分間カンファレンスを再開して日常会話での情報交換も介護に反映させるよう努めていただきたい。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の介護記録や管理日誌の申し送りに気付きなどを記入し職員間での情報を共有している 又職員間での連絡メモにも工夫や気づきを記載し実践する事で介護計画に反映させている</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>法人内でのサービスだけでなく、社会福祉協議会やボランティアの活用もしながら柔軟に支援を行っている</p>		
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>一人々との地域資源活用は安心サポート位だが、ホーム全体としては商業施設や地域の公園の活用や地域の中学生の実習や町会行事の利用などを行っている</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご入所に当りご本人が今までご利用されていたかかりつけ医のご利用が可能と伝えているが、概ね法人内のかかりつけ医(主治医)に移行されている</p>	<p>家族が希望すれば従来からのかかりつけ医の受診も可能である。利用者の日頃の健康上の管理もあり、現状では法人の協力医としてコープ都島クリニックの利用を願っている。歯科は週一回、豊中本町クリニックに往診を依頼している。</p>	

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>1回/週の看護師訪問時にはご利用者様の日々の気付きや不安な事柄について報告相談し適切なアドバイスを貰っている又緊急時には連絡し主治医医へ繋げ指示を受けるようにしている</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時には必ず職員が付き添い容態説明を行っている 又介護サマリーの提供を行い、主治医カンファの時にはご家族と同席させて頂き情報収集を行っている 入院が長期化する場合はMSWと今後の方向性について話し合い、連携をとっている</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時には看取り指針に基づいた説明を行い同意を得ている 実際にそうなった場合は、適時ご本人や家族の意向を確認しながら各専門職より情報を収集し、看取りの為の計画を作成し、ホームでのケアのあり方を示す事としている</p>	<p>入居時に看取り指針について説明し、希望者には同意書にサインしてもらっている。その後状態の変化に応じて終末期医療について家族と確認している。肺炎等により病院搬送後亡くなる利用者が多いが、昨年一旦入院後ホームに戻られ二週間の看取り支援を行ったケースがあり、その際の職員の心のケアに関する外部研修が有意義であった。</p>	<p>今後も利用者本人、他の利用者、家族や職員が不安にならないよう対応を検討し、話し合いながら終末期ケア支援に取り組んでいきたい。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急マニュアルは作成しているが応急処置や初期対応の訓練は不十分である</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>法人内の災害対策マニュアルは策定されているが、全職員への周知は不十分である</p>	<p>避難訓練は年二回が目標であるが、昨年は自主訓練一回であった。地震に対する避難のマニュアル書が作成されて職員に周知されている。管理者は避難訓練の必要性を認識しており、年二回の訓練を今後の課題としている。</p>	<p>火災発生時の避難マニュアル書も作成されたい。目標である年二回の訓練のうち一回は消防署員の立ち合いを求められ、アドバイスを受けられるよう望みたい。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	<p>14</p> <p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>日々のケアの場面での言葉かけには特に注意しており、人生の先輩として失礼のない砕け過ぎない言葉かけをするようにしている。あらゆる場面で不適切な言動があればお互いに注意するようにしている</p>	<p>丁寧な言葉づかいが利用者への心ある支援につながると自覚している。呼びかけは名字が多いが本人が好むように呼びかけている。</p>	<p>職員の利用者への言葉が、馴れ合いとなっていないか、利用者の誇りやプライバシーを損ねていないか日常的にお互い確認しながらの対応を引き続き実践していただきたい。</p>
37	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日常生活のあらゆる場面でご本人の思いや希望を読み取るようにしている。ご本人の出来る範囲で選択できるよう関わるようにしている</p>		
38	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日の流れや食事時間などは大まかに決まっているが、それに縛られることなくご本人のペースに任せている。唯、余りにも逸脱している場合は修正するようにしている</p>		
39	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>起床時や入浴準備時の衣類の選択への問いかけや髪形やし好品など画一的にならないように配慮し、ご本人らしさが損なわれない様になっている</p>		
40	<p>15</p> <p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>味噌汁の具材切や食事の盛り付け、食器洗いや食器拭きなど食事毎に皆で関わるようにしている。唯、食事介助や見守りの必要など利用者が複数おり、職員と一緒に食事をする事は出来ていない</p>	<p>食事はほくほく配食センターやニコニコキッチンから配給を受け専門給食の美味しい食事を提供している。祝祭日にはお好み焼きを出すこともある。簡単な食器洗いなどを手伝う人もいて、生き甲斐にも繋がっている。おやつ時にも食事と同じように楽しんでもらっている。</p>	<p>限られた職員のため全員が利用者と一緒に食事するのは難しいが毎日だけでなく一人が交替で利用者と共に食事できるよう工夫されてはどうか。一体感が楽しさを与える事に繋がると考えられる。</p>
41	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>毎食毎の食事摂取量や水分量は各人記録し把握している。不十分な時は出来るだけ摂取出来るよう勧めている。法人内に配食センターがあり個人の状況に合わせて対応してくれている。STによる嚥下リハも実施している</p>		
42	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後口腔ケアを行っている。1回/週は訪問歯科による口腔ケアを行っており、誤嚥性肺炎の予防と口腔内の清潔を保っている。口腔ケアについての適切なアドバイスを受けている</p>		
43	<p>16</p> <p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄表で排泄状況を把握している。安易におむつを装着せず特に日中はトイレでの排泄を尊重している。意志表示の出来ない方についてもしぐさや素振りに注視しさりげなくケアする事で自尊心を失わず排泄能力が維持できるようにしている</p>	<p>排泄チェック表を利用してトイレで排泄するよう見守り、誘導支援している。一人でトイレに行ける利用者は四名で見守り程度、五名の利用者は車いすで職員が介助する。排泄の自立に向けた支援が行われている。</p>	
44	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>個々人の排便状況を把握し、緩下剤も併用しながら、食事形態や摂取状況又水分量の把握などを行いながら、苦痛の無い排便が出来るよう支援している</p>		
45	<p>17</p> <p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>時として億劫だったり、羞恥心から入浴する事を拒む事があるが、ご本人の気分を害さないようさりげなくかわりながら、入浴後の爽快感を楽しんで頂けるように工夫している</p>	<p>入浴は週に2、3回実施されている。洗髪、肌着の交換、湯の入れ換えはその度行われている。入浴剤は肌に合わない場合があり使用されていない。入浴を拒む人にはそれとなく話し掛けて誘うようにし入浴を楽しんでもらっている。</p>	

46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホームでの画一的な寝具は使用せずご自宅で使われていた物を持参頂いている 入眠剤は出来るだけ使用せず、灯りや室温などご本人の意向を確認しながら対応している		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が確認出来るよう最新の薬情報をファイルしており、いつでも確認出来るようにしている 薬は各個人の薬BOXで管理しており誤薬を防止している 降圧剤や緩下剤に関してはルールを決めており職員同士で確認するようにしている		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員はご利用者の好みや得意な事を把握しており、時々楽しみ事を提供出来るように工夫している		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人々の希望に即した外出は出来ていない 近所の公園への散歩や日常の買い物への動向 草木の水やりなどを行っている	ホームにある植木の水やりをしたり、月に1、2回近所のスーパーに出かけたりする。しかし利用者個人の外出希望はあまりないのが現状である。五月に菖蒲園に出掛ける予定だったが、複数の利用者の発熱により中止となった経緯がある。	気分転換や五感刺激の機会として無理のない遠出はご家族の協力も仰ぎながらまたぜひ企画していただきたい。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている事の安心感はあるので、ご家族様の了承を得たうえでタンスに少額さいふに入れている方はある 他は少額のお小遣いを預かり管理者が出納帳で管理している		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	遠方におられるご家族には時折電話をかけてご本人と会話して頂いている 手紙のやり取りは難しいが年賀状など出している		
52	19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	灯りや室温 音量にも配慮し皆が居心地よく過ごせるように配慮している 貼り絵を張ったり写真を掲示したりしてあたたかい雰囲気作りをしている 煩雑にならないよう整理整頓に努めている	建物の構造上ややコンパクトな感じもあるがそれが利用者には家庭的な団欒を与えているようである。リビングには利用者と一緒に作った作品が掲げられ、親近感を醸し出している。照明や室温も適切な範囲内である。職員の話し掛けが利用者の心に安らぎを与えている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入り口扉前にソファを置き死角になる場所を作っている 席順は決まっているが、食事がすめば皆が思い思いに移動し会話を楽しんでいる 行動を制限せずご本人が自由に行動出来るようにしている		
54	20 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に際してはご自宅で使われていた見慣れた物を持参頂くようにしている ご家族との写真を飾ったりしている 居室におられる事は少ないが、昔楽しんだ洋画のDVDを終日見ている方もある	居室は利用者の希望するものを飾っていて、それぞれの個性が表れている。普段から居室で過ごしたい利用者二名は居室で過ごし、その他の利用者は居間兼食堂で過ごすというように自由な雰囲気である。シーツ交換は毎日一名分ずつ行なっている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札を掲げ、扉も色分けされており、自分で判断できるようにしている 又トイレや浴室などを明示し混乱の無い様にしている		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない